

(様式第 10)

琉大医総第 360 号  
令和元年10月3日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人 琉球大学  
学長 西田

琉球大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地
氏 名	国立大学法人琉球大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

琉球大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207	電話( 098 ) 895 - 3331
------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1呼吸器内科		
2消化器内科		
3循環器内科		
4腎臓内科		
5神経内科		
6血液内科		
7内分泌内科		
8代謝内科		
9感染症内科		
10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		
11リウマチ科		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無	
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	6心臓血管外科	7内分泌外科	8小児外科
診療実績			

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1小児歯科	2矯正歯科	3口腔外科
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 神経科	2 呼吸器科	3 消化器科	4 循環器科	5 病理診断科	6 形成外科	7 リハビリテーション科
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	6床	4床	床	550床	600床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	386人	18人	393.0人	看 護 補 助 者	67人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	19人	3人	20.1人	理 学 療 法 士	19人	鍼	38人
薬 剤 師	39人	2人	40.5人	作 業 療 法 士	8人		0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	9人	嚙	0人
助 産 師	38人	人	38.0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	620人	14人	630.8人	臨 床 工 学 士	23人	医療社会事業従 事者	0人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	52人
歯 科 衛 生 士	4人	0人	4.0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	134人
管 理 栄 養 士	8人	0人	8.0人	診 療 放 射 線 技 師	32人	そ の 他 の 職 員	153人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	30人	眼 科 専 門 医	9人
外 科 専 門 医	24人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	14人
精 神 科 専 門 医	5人	放 射 線 科 専 門 医	15人
小 児 科 専 門 医	15人	脳 神 経 外 科 専 門 医	7人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整 形 外 科 専 門 医	19人
泌 尿 器 科 専 門 医	6人	麻 酔 科 専 門 医	22人
産 婦 人 科 専 門 医	19人	救 急 科 専 門 医	4人
		合 計	198人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 大屋 祐輔 ) 任命年月日 平成31年 4月 1日

医療安全管理委員会構成員  
 医療安全調査委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	500.4 人	15.3 人	515.7 人
1日当たり平均外来患者数	1121.1 人	72.0 人	1193.1 人
1日当たり平均調剤数	752.9 剤		
必要医師数	118.6人		
必要歯科医師数	5.60人		
必要薬剤師数	18人		
必要(准)看護師数	299人		

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	163.07m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	8床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急衛生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 54.25 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 0 台		病床数	6 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名		[医薬品情報室]・[薬剤部員室]			
化学検査室	350.60m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動蛍光免疫測定装置			
細菌検査室	126.94m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動迅速同定感受性測定装置			
病理検査室	151.73m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 脱水・脱脂パラフィン浸透装置			
病理解剖室	58.44m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) SL写真撮影装置			
研究室	6101.00 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) HSオールインワン蛍光顕微鏡システム			
講義室	525.91m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2 室	室数	2 室
図書室	807.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	5 室	室数	5 室

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	81.7 %	逆紹介率	57.7 %
算出根拠	A：紹介患者の数		12,304 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,456 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,073 人
	D：初診の患者の数		16,372 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
近本 亮	熊本大学医学 部附属病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
望月 保博	かりゆし法律 事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
儀間 小夜子	NPO 法人こども医療支援 わらびの会		医療を受ける立場にある者	有・無	2
嘉目 克彦	琉球大学		学長が必要と認めた者	有・無	3
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
大学公式ホームページ及び病院公式ホームページでの公表	













(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	胸腔鏡下食道切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 食道癌に対し、従来は開胸手術を要していたが、胸腔鏡を用いることで痛みが減り、入院期間が短縮できる。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)は、重症大動脈弁狭窄症に対する低侵襲治療である。TAVIは、経カテーテルの大動脈弁置換術関連学会協議会に認定された医療機関のみが施行可能な治療法です。			
医療技術名	植込み型補助人工心臓	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 重症心不全患者に対する心臓移植までのブリッジ治療として行っている。2012年に植込み型補助人工心臓施設認定・実施医認定を受け、これまでに12例に施行した。うち2例で心臓移植まで到達できている。			
医療技術名	妊孕性温存目的卵巣凍結	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児(0~14才)のがん患者さんが、がん治療により妊娠する能力を失ってしまう可能性がある場合、がん治療前に卵巣を凍結し、がん克服後に融解し、移植する技術			
医療技術名	妊孕性温存目的卵子凍結	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 上記同様の目的で若年成人のがん治療開始前に卵子を凍結し、がん克服後に顕微授精を行って受精させ、移植する技術			
医療技術名	癒着胎盤例に対する大動脈balloon occlusion	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 上記疾患の患者の帝王切開時に大動脈balloon挿入による止血術を併用する			
医療技術名	妊娠中の子宮頸癌に対する広汎子宮頸部摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 妊娠中に子宮頸癌を認めた場合、通常は妊娠を中断し、子宮を摘出する。当科では胎児が子宮にしながら子宮頸部を摘出し、妊娠を継続させる手術を行っている。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	0	56	ベーチェット病	22
2	筋萎縮性側索硬化症	6	57	特発性拡張型心筋症	22
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	4
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	10
6	パーキンソン病	37	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	19
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	32	66	IgA腎症	53
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	22
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	29	68	黄色靱帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	7	69	後縦靱帯骨化症	43
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	9
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	62
17	多系統萎縮症	6	72	下垂体性ADH分泌異常症	11
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	7	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライゾゾーム病	16	74	下垂体性PRL分泌亢進症	9
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	7	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	7	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	19
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	55
24	亜急性硬化性全脳炎	4	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	13	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	4	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	41
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	11
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	13
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	17
34	神経線維腫症	12	89	リンパ脈管腫症	4
35	天疱瘡	24	90	網膜色素変性症	30
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	13	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	44
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	12	95	自己免疫性肝炎	11
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	113
42	結節性多発動脈炎	2	97	潰瘍性大腸炎	106
43	顕微鏡的多発血管炎	13	98	好酸球性消化管疾患	6
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	3	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	8	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	99	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	56	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	83	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	6	107	若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	17	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	1	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	先天性ミオパチー	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
0	マリネスコ・シェーグレン症候群	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12
3	筋ジストロフィー	163	特発性後天性全身性無汗症	7
0	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164	眼皮膚白皮症	1
2	遺伝性周期性四肢麻痺	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
1	アトピー性脊髄炎	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
4	脊髄空洞症	167	マルファン症候群	5
0	脊髄髄膜瘤	168	エーラス・ダンロス症候群	2
0	アイザックス症候群	169	メンケス病	0
0	遺伝性ジストニア	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
0	神経フェリチン症	171	ウィルソン病	1
1	脳表ヘモジリン沈着症	172	低ホスファターゼ症	0
0	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173	VATER症候群	0
1	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174	那須・ハコラ病	0
0	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175	ウィーバー症候群	0
0	ペリー症候群	176	コフィン・ローリー症候群	0
0	前頭側頭葉変性症	177	ジュベール症候群関連疾患	0
0	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178	モワット・ウィルソン症候群	0
0	痙攣重積型(三相性)急性脳症	179	ウィリアムズ症候群	0
0	先天性無痛無汗症	180	ATR-X症候群	0
0	アレキサンダー病	181	クルーゾン症候群	0
0	先天性核上性球麻痺	182	アペール症候群	0
0	メビウス症候群	183	ファイアー症候群	0
1	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
0	アイカルディ症候群	185	コフィン・シリス症候群	0
0	片側巨脳症	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
0	限局性皮質異形成	187	歌舞伎症候群	0
0	神経細胞移動異常症	188	多脾症候群	0
0	先天性大脳白質形成不全症	189	無脾症候群	0
0	ドラベ症候群	190	鰓耳腎症候群	0
0	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191	ウェルナー症候群	0
0	ミオクロニー欠神てんかん	192	コケイン症候群	0
0	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
1	レノックス・ガストー症候群	194	ソトス症候群	0
0	ウエスト症候群	195	ヌーナン症候群	0
0	大田原症候群	196	ヤング・シンブソン症候群	0
0	早期ミオクロニー脳症	197	1p36欠失症候群	0
0	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198	4p欠失症候群	0
0	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199	5p欠失症候群	0
0	環状20番染色体症候群	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
0	ラスマッセン脳炎	201	アンジェルマン症候群	0
0	PCDH19関連症候群	202	スミス・マギニス症候群	0
0	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	203	22q11.2欠失症候群	0
0	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204	エマヌエル症候群	0
0	ランドウ・クレフナー症候群	205	脆弱X症候群関連疾患	0
1	レット症候群	206	脆弱X症候群	0
2	スタージ・ウェーバー症候群	207	総動脈幹遺残症	0
6	結節性硬化症	208	修正大血管転位症	0
2	色素性乾皮症	209	完全大血管転位症	0
2	先天性魚鱗癬	210	単心室症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	1
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイルミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無 $\beta$ リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	15	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーマ病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	1	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	4
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	2
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	1	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	2
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	4
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	1
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	9

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 医療安全対策加算1
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)(抗菌薬適正使用支援加算)
・ 臨床研修病院入院診療加算(医科(基幹型)・歯科(単独型))	・ 患者サポート体制充実加算
・ 救急医療管理加算	・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 診療録管理体制加算1	・ 呼吸ケアチーム加算
・ 医師事務作業補助体制加算1(25対1)	・ 後発医薬品使用体制加算2
・ 急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者 5割未満)	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 看護職員12対1夜間配置加算2	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 乳幼児加算・幼児加算	・ データ提出加算2
・ 二類感染症患者入院診療加算	・ 入退院支援加算1(入院時支援加算)
・ 超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算	・ 認知症ケア加算2
・ 看護補助加算2(精神病棟)	・ 精神疾患診療体制加算
・ 療養環境加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 小児療養環境特別加算	・ 特定集中治療室管理料1(小児加算)(早期離床・リハビリテーション加算)
・ 無菌治療室管理加算1	・ ハイケアユニット入院医療管理料2
・ 無菌治療室管理加算2	・ 新生児特定集中治療室管理料1
・ 緩和ケア診療加算(個別栄養食事管理加算)	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 精神科応急入院施設管理加算	・ 小児入院医療管理料2(プレイルーム加算)
・ 精神科身体合併症管理加算	
・ 精神科リエゾンチーム加算	
・ 摂食障害入院医療管理加算	
・ がん診療連携拠点病院加算	
・ 栄養サポートチーム加算	



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ ウイルス疾患指導料	・ 医療機器安全管理料(歯科)
・ 植込型除細動器移行期加算	・ 総合医療管理加算 ・ 歯科治療時医療管理料
・ 高度難聴指導管理料	・ 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・ がん患者指導管理料イ	・ 持続血糖測定器加算、 皮下連続式グルコース測定
・ がん患者指導管理料ロ	・ 造血器腫瘍遺伝子検査
・ がん患者指導管理料ハ	・ 遺伝学的検査
・ 外来緩和ケア管理料	・ 精密触覚機能検査
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 抗HLA(スクリーニング検査)及び抗HLA(抗体特異性 同定検査)
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判 定)
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 検体検査管理加算(I)
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 検体検査管理加算(IV)
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ 国際標準検査管理加算
・ 院内トリアージ実施料	・ 遺伝カウンセリング加算
・ 夜間休日救急搬送医学管理料	・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ 救急搬送看護体制加算	・ 植込型心電図検査
・ 外来リハビリテーション診療料	・ 時間内歩行試験、 シャトルウォーキングテスト
・ 外来放射線照射診療料	・ ヘッドアップティルト試験
・ ニコチン依存症管理料	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 相談体制充実加算	・ 光トポグラフィー
・ がん治療連携計画策定料	・ 神経学的検査
・ がん治療連携管理料	・ 補聴器適合検査
・ 認知症専門診断管理料	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 内服・点滴誘発試験
・ 排尿自立指導料	・ 画像診断管理加算3
・ 薬剤管理指導料	・ 遠隔画像診断
・ 医療機器安全管理料1	・ ポジトロン断層撮影
・ 医療機器安全管理料2	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・ 心臓MRI撮影加算	・ 脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術
・ 頭部MRI撮影加算	・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 仙骨神経刺激装置植込術及び交換術
・ 外来化学療法加算1	・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・ 無菌製剤処理料	・ 緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(I)(初期加算)	・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)(初期加算)	・ 網膜再建術
・ 廃用症候群リハビリテーション料(I)	・ 人工中耳植込術
・ 運動器リハビリテーション料(I)(初期加算)	・ 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ リハビリテーション総合計画評価料	・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・ 呼吸器リハビリテーション料(I)(初期加算)	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・ がん患者リハビリテーション料	・ 喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・ 集団コミュニケーション療法料	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1(乳腺悪性腫瘍手術の加算)及びセンチネルリンパ節生検(片側・併用)
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2(乳腺悪性腫瘍手術の加算)及びセンチネルリンパ節生検(片側・単独)
・ 児童思春期精神科専門管理加算(通院・在宅精神療法)	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 医療保護入院等診療料	・ 経皮的冠動脈形成術
・ 硬膜外自家注入	・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ 人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・ 経皮的冠動脈ステント留置術
・ 導入期加算1	・ 経カテーテル大動脈弁置換術
・ 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・ 経皮的中隔心筋焼灼術
・ 下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ 一酸化窒素吸入療法	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・ 歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・ 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・ 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算(皮膚悪性腫瘍切除術の加算)	・ 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・ 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・ 歯周組織再生誘導手術
・ 補助人工心臓	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・ 麻酔管理料(Ⅰ)
・ 経皮的動脈遮断術	・ 麻酔管理料(Ⅱ)
・ ダメージコントロール手術	・ 放射線治療専任加算
・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)	・ 外来放射線治療加算
・ 腹腔鏡下肝切除術	・ 高エネルギー放射線治療
・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・ 1回線量増加加算
・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ 同種死体腎移植術	・ 画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・ 生体腎移植術	・ 1回線量増加加算(前立腺照射)
・ 膀胱水圧拡張術	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他のもの)
・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・ 直線加速器による定位放射線治療
・ 人工尿道括約筋植込・置換術	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・ 保険医療機関間の連携による病理診断
・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ デジタル病理画像による術中迅速病理診断組織標本作製
・ 腹腔鏡下仙骨脛固定術	・ デジタル病理画像による迅速細胞診
・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・ 病理診断管理加算2
・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
・ 胃瘻造設術	・ 口腔病理診断管理加算2
・ 輸血管理料Ⅱ	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 貯血式自己血輸血管理体制加算	・ CAD/CAM冠
・ 自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・ 歯科矯正診断料
・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算	









(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
iPS細胞作製技術を応用したヒト人工膵幹細胞、人工肝幹細胞の樹立	野口 洋文	再生医学講座	4,650,000	補 委	日本学術振興会 科研費
放射線治療患者における海馬機能強化法の樹立	石内 勝吾	脳神経外科学講座	10,500,000	補 委	日本学術振興会 科研費
造血細胞移植に関わる新たなアロ免疫認識機構の解明	森島 聡子	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	3,000,000	補 委	日本学術振興会 科研費
人工ペプチドによる生体制御システムの開発	松下 正之	分子・細胞生理学講座	7,000,000	補 委	日本学術振興会 科研費
腎近位尿管上皮細胞を足場とするレプトスピラの感染機構の解明	Toma Claudia	細菌学講座	5,100,000	補 委	日本学術振興会 科研費
硫化水素ガス吸入療法による脊髄虚血後運動神経保護効果のプロテオーム解析	垣花 学	麻酔科学講座	4,100,000	補 委	日本学術振興会 科研費
染色体に転移した外来性薬剤耐性遺伝子の薬剤耐性菌の世界的拡散におけるリスク評価	浜元 宏太	病態検査学講座	900,000	補 委	日本学術振興会 科研費
非結核性抗酸菌による腹膜透析出口部感染に対するアミカシンの腹腔内投与の有用性	古謝 さなえ	薬剤部	460,000	補 委	日本学術振興会 科研費
沖縄に多発する頭部血管肉腫の、多検体RNA発現解析による腫瘍特異蛋白の網羅的探索	内海 大介	皮膚病態制御学講座	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科研費
三次元パターンを用いた脂肪組織由来幹細胞の迅速な大量抽出技術の開発	角南 寛	先端医学研究センター	3,000,000	補 委	日本学術振興会 科研費
前立腺癌における悪性形質およびアンドロゲン不応性の一元的制御機構の解明	野口 洋文	再生医学講座	500,000	補 委	日本学術振興会 科研費(研究分担者)
歯の石灰化制御分子TRPM7の情報伝達と機能解析	松下 正之	分子・細胞生理学講座	300,000	補 委	日本学術振興会 科研費(研究分担者)

計 40,710,000

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
リーシュマニア症およびシヤーガス病の感染・病態リスク評価系の構築	山本 雄一	皮膚科	200,000	⑩ 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
分子ロボティクスによる糖尿病モデルマウス血糖値制御法の研究	野口 洋文	再生医学講座	2,700,000	⑩ 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
乳歯歯髄細胞由来iPS細胞からのインスリン分泌β細胞の再生	野口 洋文	再生医学講座	300,000	⑩ 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
神経細胞でのCaMKキナーゼファミリーによるチロシンキナーゼ系の活性化反応	山本 秀幸	生化学講座	1,200,000	⑩ 日本学術振興会 科研費
Angptl2による新規マクロファージ活性化機構とその生理的意義の解明	海川 正人	医化学講座	310,156	⑩ 日本学術振興会 科研費
一酸化窒素合成酵素系(NOSs)の生物学的多様性の解明	筒井 正人	薬理学講座	1,621,189	⑩ 日本学術振興会 科研費
PC-cineMRIによる肺高血圧症の早期発見と治療効果判定法の確立	村山 貞之	放射線診断治療学講座	1,436,184	⑩ 日本学術振興会 科研費
高精度放射線治療を用いた子宮頸癌根治的放射線治療プロトコルの開発	戸板 孝文	放射線診断治療学講座	1,069,440	⑩ 日本学術振興会 科研費
マウス・ヒト間葉系細胞から人工間葉系幹細胞の樹立	潮平 知佳	再生医学講座	1,400,000	⑩ 日本学術振興会 科研費
高悪性度の前立腺癌に発現するマーカーの研究	齋藤 誠一	腎泌尿器外科学講座	1,207,762	⑩ 日本学術振興会 科研費
抗体医薬リツキシマブ投与によるインフュージョンリアクション発症メカニズムの解明	中村 克徳	薬剤部	1,470,000	⑩ 日本学術振興会 科研費
がん診療の質指標の評価結果をフィードバックすることで、診療の質の向上を図れるか？	増田 昌人	がんセンター	1,397,376	⑩ 日本学術振興会 科研費
ヒト卵子形成および胚発生における卵胞液中・血中脂肪酸の影響	銘苅 桂子	周産母子センター	578,523	⑩ 日本学術振興会 科研費

計 14,890,630

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
積層化脂肪組織由来幹細胞シート移植による陳旧性顔面神経麻痺治療法の開発	清水 雄介	形成外科学講座	1,472,246	補 委	日本学術振興会 科研費
腎癌血清で減少する糖蛋白の生物学的役割と臨床的意義	仲西 昌太郎	腎泌尿器外科学講座	750,292	補 委	日本学術振興会 科研費
HPV関連頭頸部癌に対する新規分子標的薬の開発	近藤 俊輔	耳鼻咽喉科	900,465	補 委	日本学術振興会 科研費
脳機能画像を用いた顔面神経麻痺の中核制御機構の解明と新規リハビリテーション開発	喜瀬 乗基	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	508,270	補 委	日本学術振興会 科研費
細胞膜透過ペプチドによる舌癌を標的とした新規治療戦略の開発	圓谷 智之	分子・細胞生理学講座	860,771	補 委	日本学術振興会 科研費
GABA伝達シグナルを介した神経障害性疼痛治療への挑戦	高山 千利	分子解剖学講座	1,399,409	補 委	日本学術振興会 科研費
ErbB4受容体切断の統合失調症発症における役割の解明	仲嶺 三代美	生化学講座	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科研費
動物脂肪依存の脳内分子機構と米ぬか由来機能成分γオリザノールの治療的意義の解明	益崎 裕章	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	2,189,613	補 委	日本学術振興会 科研費
新たなゲノム創薬手法による新規2型糖尿病治療標的の同定	今村 美菜子	先進ゲノム検査医学講座	1,300,929	補 委	日本学術振興会 科研費
潜伏感染ウイルスが関与するリンパ系腫瘍の発症と進展におけるHLAの意義の解明	森島 聡子	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	928,913	補 委	日本学術振興会 科研費
脂質メディエーターに着目した多発性嚢胞腎病態生理に基づく疾患特異的治療の開発	中西 浩一	育成医学講座	605,720	補 委	日本学術振興会 科研費
抑うつ性混合状態の定量的診断と生物学的背景の検討	近藤 毅	精神病態医学講座	541,410	補 委	日本学術振興会 科研費
放射線照射による認知機能低下における高気圧酸素併用療法の神経保護作用機序の解明	片桐 千秋	脳神経外科学講座	1,319,484	補 委	日本学術振興会 科研費

計 14,077,522

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒト乳頭腫ウイルス関連頭頸部癌の診断及び予後に関与するバイオマーカーの解明	鈴木 幹男	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	1,086,014	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
DNA修復酵素遺伝子多型解析による頭頸部癌治療の効果予測	平川 仁	耳鼻咽喉科	868,355	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
DNA複製異常による成人T細胞白血病発症機構の解明	水口 真理子	免疫学講座	1,732,206	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
うつからの回避的な認知・行動パターンによるうつ病の再分類と治療アプローチの開発	甲田 宗良	精神病態医学講座	365,424	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
HPV関連癌に対する新規樹状細胞ワクチン治療の有効性の検証	上原 貴行	耳鼻咽喉科	1,053,703	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
小児悪性軟部腫瘍におけるFOXMiと主要なシグナル伝達経路の標的分子としての評価	久田 正昭	第一外科	520,000	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
コラーゲン遺伝子多型に着目した骨盤臓器脱高リスク発症群の選別化と早期リハビリ介入	芦刈 明日香	腎泌尿器外科	889,233	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
ビタミン・ミネラルによる皮膚の恒常性維持と、その欠乏による皮膚症モデルの病態	山口 さやか	皮膚科	1,400,000	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
子宮頸癌における中央遮蔽、腔内照射線量を考慮したリスク臓器の耐容線量の同定	有賀 拓郎	放射線科	564,110	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
肺細胞における遠隔虚血プレコンディショニングのメカニズム	和泉 俊輔	麻酔科	1,300,000	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
インフルエンザ治療薬のシクリン阻害効果に着目した腎細胞癌の新規治療法の開発	泉 恵一朗	腎泌尿器外科	1,072,977	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
良性組織迷入に着目した口腔癌後発頸部リンパ節転移の解明	丸山 哲昇	歯科口腔外科	1,072,372	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費
小脳歯状核へのガドリニウム沈着が、巧緻運動機能、高次脳機能へ及ぼす影響	與儀 彰	放射線部	1,475,614	⑩ 日本学術振興会 科 委 研費

計 13,400,008

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
赤血球型マラリア感染における記憶B細胞維持の場の可視化	岸本 英博	寄生虫・免疫病因病態学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会 科研費
新規高度Env発現組換えワクシニアウイルスワクチンによるHTLV-1感染制御	高橋 良明	免疫学講座	830,000	補委	日本学術振興会 科研費
腫瘍壊死因子から見た難治性うつ病性障害の病態解明とその治療戦略について	三原 一雄	精神病態医学講座	77,965	補委	日本学術振興会 科研費
脊髄におけるGABAの放出及びその抑制性応答と胎児期の運動機能発達との関連	清水 千草	分子解剖学講座	806,308	補委	日本学術振興会 科研費
有棘細胞癌の新規癌幹細胞マーカーの探索	武居 公子	医化学講座	872,307	補委	日本学術振興会 科研費
膵β細胞の分化誘導を促進する培養方法の開発	中島 義基	再生医学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会 科研費
骨成長因子・骨再生材料を用いた唇顎口蓋裂患者の顎裂部骨移植術の臨床的研究	西原 一秀	顎顔面口腔機能再建学講座	851,318	補委	日本学術振興会 科研費
口腔癌擦過細胞のマイクロRNA解析による後発顎部リンパ節転移予測マーカーの確立	新崎 章	顎顔面口腔機能再建学講座	780,581	補委	日本学術振興会 科研費
加齢による排尿障害を克服、neuromodulationによる血流増加と尿道機能	大城 琢磨	腎泌尿器外科学講座	390,612	補委	日本学術振興会 科研費
加齢による過活動膀胱に対する新しい低出力体外衝撃波システムの確立	宮里 実	腎泌尿器外科学講座	748,643	補委	日本学術振興会 科研費
脳機能ネットワークの観点から行うPusher現象の病態解析と新規治療法の開発	西村 正彦	脳神経外科学講座	373,248	補委	日本学術振興会 科研費
肥満後の急激な減量に伴う食嗜好性変容の脳内分子メカニズム	岡本 士毅	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会 科研費
多発家系iPS細胞による双極性障害細胞モデルの開発と原因変異の探索	高松 岳矢	分子・細胞生理学講座	1,295,144	補委	日本学術振興会 科研費

計 11,226,126

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ダイヤモンド・ブラックファン貧血のリボソームタンパク質リン酸化による造血制御解析	鳥原 英嗣	生化学講座	1,800,000	補委 日本学術振興会 科研費
紫外線暴露による高プロスタノイド環境の皮膚で、HTLV1感染細胞が腫瘍化する機序	宮城 拓也	皮膚病態制御学講座	1,456,839	補委 日本学術振興会 科研費
腸内細菌叢に着目した食物アレルギー寛解機序の解明	浜田 和弥	育成医学講座	34,577	補委 日本学術振興会 科研費
HPVによる喉頭乳頭腫形成機構：増殖制御と免疫回避システムからのアプローチ	池上 太郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	1,499,327	補委 日本学術振興会 科研費
上咽頭癌におけるリポ فسファチジン酸受容体5の発現解析	又吉 宣	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	636,497	補委 日本学術振興会 科研費
ヒト皮膚の部位特異性を決定する遺伝子クラスター解析による限局性皮膚症の病態解明	山本 雄一	皮膚科	900,000	補委 日本学術振興会 科研費
抗癌剤耐性高分化型口腔癌に対するEphA4を標的とした分子生学的メカニズムの解明	仲宗根 敏幸	歯科口腔外科	1,564,297	補委 日本学術振興会 科研費
がん患者の死前喘鳴に対する薬物療法の効果を推定するための全国レジストリ研究	中島 信久	地域医療部	250,787	補委 日本学術振興会 科研費
脳機能画像を応用した経頭蓋直流刺激による音声障害・嚥下障害の治療	喜友名 朝則	耳鼻咽喉科	753,178	補委 日本学術振興会 科研費
頭頸部領域のヒト乳頭腫ウイルス受容体の解析	金城 秀俊	耳鼻咽喉科	953,984	補委 日本学術振興会 科研費
糖尿病性膀胱機能障害への磁気刺激神経調整的新システムの確立-基礎・臨床的検討	木村 隆	腎泌尿器外科	376,437	補委 日本学術振興会 科研費
CBP/p300依存性EGFRシグナリングを利用した皮膚恒常性維持制御法の開発	市瀬 多恵子	分子解剖学講座	520,343	補委 日本学術振興会 科研費
ロボットスーツHALを用いた転倒予防トレーニングの開発と有効性に関する研究	西村 正彦	脳神経外科学講座	315,604	補委 日本学術振興会 科研費

計 11,061,870

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ウイルス感染時にカギを握る新規遺伝子の同定	國吉 佳奈子	薬理学講座	2,585,917	補委 日本学術振興会 科研費
皮膚・毛包形成におけるRas下流Raf/PI3K/RalGEFシグナル経路の役割	市瀬 多恵子	分子解剖学講座	582,558	補委 日本学術振興会 科研費
腎組織幹細胞を用いた機能的腎小体の再生	野口 洋文	再生医学講座	400,000	補委 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
マウス歯根形成端周囲組織への直接的遺伝子導入法(GTPT)の開発と応用	野口 洋文	再生医学講座	50,000	補委 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
胎児期に完成する呼吸リズムにおけるGABAシナプスと細胞内Cl <sup>-</sup> 濃度の発達変化	清水 千草	分子解剖学講座	500,000	補委 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
初期胚特異抗原SSEA-1が高未分化iPS細胞を特定するマーカーであることの証明	野口 洋文	再生医学講座	100,000	補委 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
遺伝子工学的手法による乳歯髄細胞からの体性幹細胞単離とその特性解析	野口 洋文	再生医学講座	50,000	補委 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
男性ホルモン補充に起因する虚血性心血管疾患に対する生体内NO量の制御の有用性の検証	松崎 俊博 筒井 正人	薬理学講座	0	補委 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
4次元呼吸ダイナミックCTを用いた間質性肺炎における局所呼吸運動・病態解析	山城 恒雄	放射線科	0	補委 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
尿バイオマーカーによる小児紫斑病性腎炎新規診断法の開発	中西 浩一	育成医学講座	0	補委 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
小児固形悪性腫瘍に対する、免疫学的精鎖解析法を用いた新規診断システム法の開発	久田 正昭	第一外科	100,000	補委 日本学術振興会 科研費
テストステロンによる虚血性心脈管障害の増悪機構の解明	坂梨 まゆ子	薬理学講座	438,378	補委 日本学術振興会 科研費
沖縄県の難聴患者における効率的難聴遺伝子診断の構築	我那覇 章	耳鼻咽喉科	1,541,506	補委 日本学術振興会 科研費

計 6,348,359

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
潜水・潜函作業現場における酸素普及状況と減圧障害予防効果の解明	合志 清隆	高気圧治療部	115,714	⑨ 日本学術振興会 科研費
抗癌剤曝露依存的に活性化されるEphA4を標的とした新規治療戦略の構築	喜名 振一郎	顎顔面口腔機能再建学講座	2,200,900	⑨ 日本学術振興会 科研費
ダイビング剖検診断における血管内気泡、肺の気腫性変化、脂肪塞栓の意義	深沢 真希	法医学講座	2,671,156	⑨ 日本学術振興会 科研費
M13ファージワクチンによるB細胞活性化機構の解明とワクチン効果の検討	村上 明一	寄生虫・免疫病因病態学講座	50,000	⑨ 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
神経膠芽腫に対する多剤併用分子標的療法の確立	渡邊 孝	脳神経外科	300,000	⑨ 日本学術振興会 科研費(研究分担者)
p38MAPK抑制ペプチドの開発と膵島移植への応用	来間 清人	形態病理学講座	1,400,000	⑨ 日本学術振興会 科研費
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の確立	中西 浩一	育成医学講座	300,000	⑨ 厚生労働省 科研費(研究分担者)
肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と拡充に関する研究	前城 達次	第一内科	500,000	⑨ 厚生労働省 科研費(研究分担者)
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究	藤田 次郎	感染症・呼吸器・消化器内科学講座	400,000	⑨ 厚生労働省 科研費(研究分担者)
がん対策の進捗管理のための指標と測定の継続的な発展に向けた研究	増田 昌人	がんセンター	500,000	⑨ 厚生労働省 科研費(研究分担者)
難治性聴覚障害に関する調査研究	鈴木 幹男	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	500,000	⑨ 厚生労働省 科研費(研究分担者)
特発性大腿骨壊死症の医療水準及び患者のQOL向上に関する大規模多施設研究	仲宗根 哲	整形外科学講座	200,000	⑨ 厚生労働省 科研費(研究分担者)
MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究	健山 正男	感染症・呼吸器・消化器内科学講座	1,200,000	⑨ 厚生労働省 科研費(研究分担者)

計 10,337,770



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新規バイオマーカーを用いたスコア法によるIgA腎症早期発見・早期診断を介した透析移行ゼロ化に向けた試み	古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	325,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構
HAMの治療薬開発を促進する代替エンドポイントとしてのバイオマーカーの実用化研究	崎間 洋邦	第三内科	780,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構
病理医不足を解決するWSIを用いた医療チームによるMedical Artsの創成研究	吉見 直己	病理診断科	600,000	補 ⑤委	日本医療研究開発機構
【先端医療実用化推進形成事業】 国際医療拠点を目指した琉球大学での再生医療基盤形成	藤田 次郎	第一内科	10,487,986	補	沖縄県
	清水雄介	形成外科		⑤委	
幹細胞輸送検証事業	清水雄介	形成外科	2,460,000	補 ⑤委	沖縄県
慢性腎臓病重症化予防のための多職種連携ビジュアルツールの開発	古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	3,300,000	補 ⑤委	公益財団法人沖縄科学技術振興センター(沖縄)
沖縄県地域医療支援センター運営事業	藤田 次郎	沖縄県地域医療支援センター	36,906,381	補 ⑤委	沖縄県
沖縄県肝疾患診療連携拠点病院事業	前城 達次	第一内科	12,310,000	補 ⑤委	沖縄県
沖縄県地域統括相談支援センター事業	増田 昌人	がんセンター	8,750,060	補 ⑤委	沖縄県
沖縄県がん患者等支援事業	増田 昌人	がんセンター	8,500,000	補 ⑤委	沖縄県
HIV感染者等保健福祉相談事業	健山 正男	第一内科	750,000	補 ⑤委	公益財団法人エイズ予防財団
沖縄県エイズ治療拠点病院研修委託	健山 正男	第一内科	900,000	補 ⑤委	沖縄県
病理学的検査業務	吉見 直己	病理診断科	22,604,724	補 ⑤委	独立行政法人国立病院機構 沖縄病院 他

計 108,674,151

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肝炎情報センター戦略的強化事業	前城 達次	第一内科	794,000	補 ⑤ 国立国際医療研究センター 肝炎情報センター
沖縄県認知症疾患医療センター事業	近藤 毅	精神科神経科	8,074,000	補 ⑤ 公益財団法人エイズ予防財団
沖縄県感染症診療ネットワークコーディネーター配置委託	健山 正男	第一内科	4,590,000	補 ⑤ 沖縄県
【監査】ハイリスク糖尿病患者におけるエンバグリプロジンの血管内皮機能に対する効果 —多施設プラセボ対照二重盲検ランダム化比較試験—	中村 克徳	臨床研究支援センター	648,000	補 ⑤ 国立大学法人佐賀大学
【監査】SUN4936c第II相試験 ヨード造影剤投与予定の腎機能障害患者を対象とした SUN4936cの安全性及び造影剤腎症予防効果の探索的医師主導試験	植田 真一郎	臨床研究教育管理センター	486,000	補 ⑤ 奈良県立医科大学
【監査】高尿酸血症に対するキサランチンオキシダーゼ阻害薬フェブキソスタットの血管障害予防効果に関する多施設共同ランダム化比較試験	中村 克徳	臨床研究支援センター	648,000	補 ⑤ 国立大学法人佐賀大学
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金 (新人看護職員研修事業)	藤田 次郎	病院長	1,737,000	補 委 沖縄県
感染症予防事業費等国庫負担(補助)金 (がん診療連携拠点病院機能強化事業)	増田 昌人	がんセンター	53,672,000	補 委 沖縄県
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金 (認定看護師育成事業)	藤田 次郎	病院長	5,579,000	補 委 沖縄県
沖縄県新型インフルエンザ等患者入院医療機関施設・設備整備事業費補助金	藤田 次郎	病院長	3,437,000	補 委 沖縄県
地域医療介護基金 (地域医療関連講座設置事業)	大屋 祐輔	シミュレーションセンター	19,090,000	補 委 沖縄県
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金 (がん診療連携拠点病院等の患者に対する歯科保健医療推進事業)	藤田 次郎	病院長	4,446,000	補 委 沖縄県
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金 (がん医療提供体制充実強化事業)	藤田 次郎	病院長	23,966,000	補 委 沖縄県

計 127,167,000

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
指導医育成プロジェクト事業	藤田 次郎	病院長	4,161,000	③補 委	沖縄県
平成30年度感染症指定医療機関運営費補助金	藤田 次郎	病院長	4,113,000	③補 委	沖縄県
平成30年度看護師の特定行為に係る指導者育成事業	藤田 次郎	病院長	2,217,000	③補 委	厚生労働省

計 10,491,000

合計 368,384,436

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Nahar S, Nakashima Y, Miyagi-Shiohira C, et al.	第一内科	Cytokines in adipose-derived mesenchymal stem cells promote the healing of liver disease.	World Journal of Stem Cells. 2018 Nov 26;10(11):146-159.
2	Uechi K, Tada T, Kuwahara-Arai K, et al.	第一内科	An improved carbapenem inactivation method, CIMTrisII, for carbapenemase production by Gram-negative pathogens.	Journal of Medical Microbiology. 2019 Feb;68(2):124-131.
3	Nahar S, Nakashima Y, Miyagi-Shiohira C, et al.	第一内科	A Comparison of Proteins Expressed between Human and Mouse Adipose-Derived Mesenchymal Stem Cells by a Proteome Analysis through Liquid Chromatography with Tandem Mass Spectrometry.	International Journal of Molecular Science. 2018 Nov 6;19(11). pii: E3497.
4	Uechi K, Tada T, Sawachi Y, et al.	第一内科	A carbapenem-resistant clinical isolate of Aeromonas hydrophila in Japan harbouring an acquired gene encoding GES-24 $\beta$ -lactamase.	Journal of Medical Microbiology. 2018 Nov;67(11):1535-1537.
5	Nahar S, Nakashima Y, Miyagi-Shiohira C, et al.	第一内科	A Comparison of the Preservation of Mouse Adipose Tissue-Derived Mesenchymal Stem Cells Using the University of Wisconsin Solution and Hank's Balanced Salt Solution.	Stem Cells International. 2018 Sep 6;2018:1625464.
6	Fujita J.	第一内科	Introduction in the new textbook titled "Lung disease associated with rheumatoid arthritis".	Respiratory Investigation. 2018 Sep;56(5):371-372.
7	Kami-Onaga K, Tateyama M, Kinjo T, et al.	第一内科	Comparison of two screening tests for HIV-Associated Neurocognitive Disorder suspected Japanese patients with respect to cART usage.	PLoS One. 2018 Jun 14;13(6):e0199106.
8	Fujita J.	第一内科	First multicenter study of nontuberculous mycobacteria and/or Aspergillus infections in lung transplant recipients in Japan.	Respiratory Investigation. 2018 May;56(3):201-202.
9	Karimata Y, Kinjo T, Parrott G, et al.	第一内科	Clinical Features of Human Metapneumovirus Pneumonia in Non-Immunocompromised Patients: An Investigation of Three Long-Term Care Facility Outbreaks.	Journal of Infectious Disease. 2018 Aug 14;218(6):868-875.
10	Shibahara D, Tanaka K, Iwama E, et al.	第一内科	Intrinsic and Extrinsic Regulation of PD-L2 Expression in Oncogene-Driven Non-Small Cell Lung Cancer.	Journal of Thoracic Oncology. 2018 Jul;13(7):926-937.

11	Hoshino K, Sugiyama M, Date T, et al.	第一内科	Phylogenetic and phylogenetic analyses of hepatitis C virus subtype 1a in Okinawa, Japan.	Journal of Viral Hepatitis. 2018 Aug;25(8):976-985.
12	Yamazato Y, Yamazato M, Ishida A, et al.	第一内科	Intratracheal Administration of Autologous Bone Marrow- Derived Cells Ameliorates Monocrotaline-Induced Pulmonary Vessel Remodeling and Lung Inflammation in Rats.	Lung. 2018 Apr;196(2):147-155.
13	Hokama A, Haranaga S, Sasaki, et al.	第一内科	A pulmonary nodule in a patient with Crohn's disease.	Intestinal Research 2019 Feb 11.
14	Sunagawa S, Shirakura T, Hokama N, et al.	第二内科	Activity of xanthine oxidase in plasma correlates with indices of insulin resistance and liver dysfunction in patients with type 2 diabetes mellitus and metabolic syndrome: A pilot exploratory study.	Journal of Diabetes Investigation 2019 Jan; 10(1): 94- 103.
15	Masuzaki H, Kozuka C, Okamoto S, et al.	第二内科	Brown rice-specific $\gamma$ -oryzanol as a promising prophylactic avenue to protect against diabetes mellitus and obesity in humans.	Journal of Diabetes Investigation 2019 Jan; 10(1): 18- 25.
16	Tamaki K, Morishima S, Nomura S, et al.	第二内科	Evaluation of two prognostic indices for adult T-cell leukemia/lymphoma in the subtropical endemic area, Okinawa, Japan.	Cancer Science 2018 Jul; 109(7): 2286-2293.
17	Naka T, Kohagura K, Kochi M et al	第三内科	Hyponatremia and mortality among very elderly residents in a geriatric health service facility.	Clinical and Experimental Nephrology. 2018 Dec;22(6):1404-1410
18	Kohagura K, Arima H, Miyasato H et al	血液浄化療法部	Add-On Effect of Angiotensin Receptor Blockade (Candesartan) on Clinical Remission in Active IgA Nephropathy Patients Treated with Steroid Pulse Therapy and Tonsillectomy: a Randomized, Parallel-Group Comparison Trial.	Kidney & Blood Pressure Research. 2018;43(3):780-792 Epub 2018 May 22.
19	Ishida A, Fujisawa M, Del Saz EG et al	第三内科	Arterial stiffness, not systolic blood pressure, increases with age in native Papuan populations.	Hypertension Research. 2018 Jul;41(7):539-546
20	Yamazato M,Nakamoto M, Sakima A et al	第三内科	Responsiveness of $\alpha$ 2-adrenoceptor/11- imidazoline receptor in the rostral ventrolateral medulla to cardiovascular regulation is enhanced in conscious spontaneously hypertensive rat	Clinical and Experimental Hypertension volume 41,2019 Epub 2018 May 15.
21	Yamazato M, Ishida A, Yamazato Y et al	第三内科	Intracerebroventricular administration of bone marrow-derived cells attenuates angiotensin II- initiated neurogenic hypertension in rats	Hypertension Research 2018 Oct ;41, 828-838 (2018)
22	Shinya T, Nagamine H, Sugawara K et al.	脳神経外科	The usefulness of indocyanine green during surgery for hypervascular posterior fossa tumors.	Surgical Neurology International 2018.4.26
23	Kiyuna T, Tome Y, Murakami T, et al.	整形外科	A combination of irinotecan/cisplatinium and irinotecan/temozolomide or tumor-targeting Salmonella typhimurium A1-R arresting doxorubicin- and temozolomide resistant myxofibrosarcoma in a PDOX mouse model.	Biochemical and Biophysical Research Communications 2018 Nov 2;505(3):737-739.

24	Yoneda S, Okubo H, Linderman SW, et al.	整形外科	The effect of modified locking methods and suture materials on Zone II flexor tendon repair—An ex vivo study.	PLoS One 2018 Oct 5;13(10):e0205121
25	Kiyuna T, Tome Y, Murakami T, et al.	整形外科	Trabectedin arrests a doxorubicin-resistant PDGFRA-activated liposarcoma patient-derived orthotopic xenograft (PDOX) nude mouse model.	BMC cancer 2018 Aug 20;18(1):840.
26	Kiyuna T, Murakami T, Tome Y, et al.	整形外科	Doxorubicin-resistant pleomorphic liposarcoma with PDGFRA gene amplification is targeted and regressed by pazopanib in a patient-derived orthotopic xenograft mouse model.	Tissue and Cell 2018 Aug;53:30–36.
27	Kiyuna T, Tome Y, Murakami T, et al.	整形外科	Tumor-targeting Salmonella typhimurium A1-R arrests a doxorubicin-resistant PDGFRA-amplified patient-derived orthotopic xenograft mouse model of pleomorphic liposarcoma	Journal of Cellular Biochemistry 2018 Sep;119(9):7827–7833.
28	Nakasone M, Nakasone S, Kinjo M, et al.	整形外科	Three-dimensional analysis of deformities of the radius and ulna in congenital proximal radioulnar synostosis.	Journal of Hand Surgery European Volume 2018 Sep;43(7):739–743.
29	Toma T, Suenaga N, Taniguchi N, et al.	整形外科	Humeral head histopathological changes in cuff tear arthropathy.	Journal of Orthopaedic Surgery (Hong Kong) 2019 Jan–Apr;27(1):2309499018816248. First Published December 4, 2018
30	Oshiro H, Kiyuna T, Tome Y, et al.	整形外科	Detection of metastasis in a patient-derived orthotopic xenograft (PDOX) model of undifferentiated pleomorphic sarcoma with red fluorescent protein.	Anticancer Research 2019 Jan;39(1):81–85.
31	Tome Y, Kiyuna T, Uehara F, et al.	整形外科	Imaging the interaction of $\alpha$ v integrin-GFP in osteosarcoma cells with RFP-expressing host stromal cells and tumor-scaffold collagen in the primary and metastatic tumor microenvironment.	Journal of Cellular Biochemistry 2019 Jan;120(1):283–289.
32	Kiuchi T, Shimizu Y, Yamazaki S, et al.	形成外科	Utility of Topical Epinephrine for Determining the Resection Range of Eyelid Sebaceous Carcinoma with Dermatitis	Archive Plastic Surgery. 2018 May;45(3):289–290
33	Suzuki Y, Sakuma H, Yamazaki S.	形成外科	Comparison of patency rates of lymphaticovenous anastomoses at different sites for lower extremity lymphedema.	J Vasc Surg Venous Lymphat Disord. 2019 Mar;7(2):222–227. doi: 10.1016/j.jvsv.2018.10.022. Epub 2019 Jan 16.
34	Wakayama A, Kudaka W, Matsumoto H, et al.	産科婦人科	Lymphatic vessel involvement predictive for lymph node metastasis and important prognostic factor in endometrial cancer.	International Journal of Clinical Oncology. 2018 Jun;23(3):532–538. doi: 10.1007/s10147-017-1227-6.

35	Kaname C, Shimoji Y, Nakasone T, et al.	産科婦人科	Age: the most important risk factor for cervical stenosis and cervical intraepithelial neoplasia recurrence after cervical conization.	Journal of Gynecology and Women's Health • 2018; 12 (4): 555845. DOI: 10.19080/JGWH.2018.12.555845 Published: November 15, 2018
36	Aoki Y, Ochiai K, Lim S, et al.	産科婦人科	A randomized phase III study of cisplatin with or without S-1 in patients with stage IVB, recurrent, or persistent cervical cancer: an Asian study.	British Journal of Cancer • 2018 Aug;119(5):530-537. doi: 10.1038/s41416-018-0206-7.
37	Nakasone T, Irahā Y, Kinjyo Y, et al.	産科婦人科	Differentiation between stage I ovarian cancer and borderline epithelial ovarian tumor by apparent diffusion coefficient value.	Radiology and Diagnostic Imaging • 2018; 1 (2): 5-5. doi: 10.31487/j.RDI.2018.02.001 Published 14 December 2018
38	Yagi H, Kinjyo Y, Chinen Y, et al.	産科婦人科	A case of intrathoracic gastric duplication cyst detected on prenatal ultrasound examination.	Case Report in Obstetrics and Gynecology • 2018 Sept, 5346920, doi.org/10.1155/2018/5346920.
39	Kozaki M, Irahā Y, Masamoto H, et al.	産科婦人科	Fetal congenital peripheral bronchial atresia diagnosed by magnetic resonance imaging: two case reports.	American Journal of Perinatology Report • 2018 Oct; 8(4): e201-e205. doi: 10.1055/s-0038-1673620
40	Arakaki Y, Shimoji Y, Yamazaki S, et al.	産科婦人科	Microsurgical lymphaticovenular anastomosis for refractory chylous ascites following para-aortic lymph nodes dissection in a patient with tubal cancer.	Gynecologic Oncology Report • 2018 Oct 1; 26: 53-55. doi: 10.1016/j.gore.2018.09.004.
41	Nagai Y, Nakamoto T, Nakasone T, et al.	産科婦人科	High-risk gestational choriocarcinoma with an unusual presentation and the treatment course of refractory or quiescent/minimally invasive disease.	Gynecologic Oncology Report • 2018 Oct 3; 26: 56-59. doi: 10.1016/j.gore.2018.10.002.
42	Hamada S, Miyamoto J, Oshiro T, et al.	小児科	Possible involvement of IL-6-producing tissue-resident macrophages in early-onset pericardial effusion pathogenesis after hematopoietic stem cell transplantation.	Pediatric Blood & Cancer. 2018 Jun;65(6):e26982.
43	Yamashiro A, Awazawa R, Ohira A, Hirata T, Zamami R,	皮膚科	Successful treatment of iatrogenic Kaposi's sarcoma with low-dose docetaxel therapy.	The Journal of Dermatol. 2018 Apr;45(4):e96-e97.
44	Okamoto Y, Yamaguchi S, Sonosaki T, Sano A, Takahashi K.	皮膚科	Subcutaneous phaeohyphomycosis caused by <i>Veronaea botryosa</i> in a Japanese patient with adult T-cell lymphoma.	The Journal of Dermatol. 2018 May;45(5):e124-e125.
45	Ashikari A, Miyazato M, Kimura R, et al	腎泌尿器外科	The effect of tramadol on sneeze-induced urethral continence reflex through $\mu$ -opioid receptors in the spinal cord in rats.	Neurourology Urodynamics. 2018 Jun; 37(5):1605-1611



46	Kimura R, Miyazato M, Ashikari A, et al	腎泌尿器外科	Age-associated urethral dysfunction in urethane-anesthetized rats.	Neurourology Urodynamics.2018 Apr; 37(4):1313- 1319
47	Kiyuna A, Ikegami T, Uehara T, et al.	耳鼻咽喉科	High-risk type human papillomavirus infection and p16 expression in laryngeal cancer.	Infectious agents and cancer. 2019 Mar 5;14:8
48	Yamashita Y, Ikegami T, Hirakawa H, et al.	耳鼻咽喉科	Staging and prognosis of oropharyngeal carcinoma according to the 8th Edition of the American Joint Committee on Cancer Staging Manual in human papillomavirus infection.	European archives of oto-rhino- laryngology. 2019 Mar;276(3):827- 836
49	Ikegami T, Uehara T, Deng Z, et al.	耳鼻咽喉科	Detection of human papillomavirus in branchial cleft cysts.	Oncology letters. 2018 Aug;16(2):1571- 1578.
50	Higa T, Takahashi H, Higa-Nakamine S, et al.	耳鼻咽喉科	Up-regulation of DUSP5 and DUSP6 by gonadotropin-releasing hormone in cultured hypothalamic neurons, GT1-7 cells.	Biomedical research. 2018;39(3):149- 158. Published: June 01,
51	Suzuki T, Mihara K, Nagai G et al.	精神科神経科	Relationship Between UGT1A4 and UGT2B7 Polymorphisms and the Steady-State Plasma Concentrations of Lamotrigine in Patients With Treatment-Resistant Depressive Disorder Receiving Lamotrigine as Augmentation Therapy.	Therapeutic drug monitoring. 2019 Feb;41(1):86-90
52	Maemoto H, Ariga T, Nakachi S,et al.	放射線科	Appropriate radiation dose for symptomatic relief and local control in patients with adult T cell leukemia/lymphoma.	Journal of radiation research. 2019 Jan 60(81):98-108.
53	Tsubakimoto M, Yamashiro T, Tsuchiya N, et al.	放射線科	MRI findings and demographics of elastofibroma dorsi: assessment of diffusion-weighted imaging and contrast enhancement patterns.	Acta Radiologica. 2018 Jun;59(6):709- 715.
54	Yogi S, Yamashiro T, Kamiya H, et al.	放射線科	Thoracic manifestations of adult T-cell leukemia/lymphoma on chest CT: difference between clinical subtypes.	Diagnostic and Interventional Radiology. 2019 Jan;25(1):55-61.
55	Xu Y, Yamashiro T, Moriya H, et al.	放射線科	Strain measurement on four-dimensional dynamic-ventilation CT: quantitative analysis of abnormal respiratory deformation of the lung in COPD.	International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease.2018 Dec 18:14:65-72
56	Maemoto H, Ariga T, Kusada, et al.	放射線科	Radiation-induced dermatitis after administration of mogamulizumab for adult T-cell leukaemia/lymphoma: a multi-institutional retrospective study.	Japanese Journal of Clinical Oncology.2019 Feb 49(2):153-159.
57	Kamizato K, Marsala M, Navarro M, et al.	麻醉科	Time-dependent, bidirectional, anti-and pro-spinal hyper-reflexia and muscle spasticity effect after chronic spinal glycine transporter 2 (Gly T2) oligonucleotide-induced downregulation.	Exp Neurol 2018 Jul 305:66-75
58	Kakinohana M, Marutani E, Tokuda K, et al.	麻醉科	Breathing hydrogen sulfide prevents delayed	Free Radic Biol Med.2019 Feb 131:243-250

59	Goto T, Nishihara K, Kataoka K, et al	齒科口腔外科	Outcomes of an International Volunteer Surgical Project for Patients with Cleft Lip and/or Cleft Palate: A Mission in Developing Laos.	Congenital Anomalies. 2018 July; 58(4): 112-116.
60	Kina S, Kinjo T, Liang F, et al	齒科口腔外科	Targeting EphA4 abrogates intrinsic resistance to chemotherapy in well-differentiated cervical cancer cell line	European Journal Pharmacology. 2018 Dec 5; 840: 70-78
61	Maruyama N, Nishihara K, Nakasone T, et al	齒科口腔外科	Triple primary malignancies of surface osteosarcoma of jaw, myelodysplastic syndrome, and colorectal cancer as a second primary cancer detected by PET2-[18F]-fluoro-2-deoxy-D-glucose positron emission tomography	Oncology Lettes. 2018 Jun; 15: 9901-9907.
62	Nimura F, Nakasone T, Matsumoto H, et al	齒科口腔外科	Dedifferentiated liposarcoma of the oral floor: A case study and literature review of 50 cases of head and neck neoplasm	Oncology Lettes. 2018 May; 15: 7681-7688.
63	Maruyama N, Nakasone T, Arakaki O, et al	齒科口腔外科	Triple primary cancer of the head and neck, skin and prostate: A case report and literature review.	Oncology Lettes. 2018 Oct; 16: 5249-5256.
64	Ishii A, Oishi T, Kakuda Y, et al.	病理診断科	Mixed pleomorphic lobular and apocrine carcinoma of the breast: A case report suggesting pathogenesis	Pathology International. 2019 Feb 27.
65	Tatsuma Fukuda, Naoko Ohashi-Fukuda, Yutaka Kondo. et. al	救急部	Association of Prehospital Advanced Life Support by Physician With Survival After Out-of-Hospital Cardiac Arrest With Blunt Trauma Following Traffic Collisions.	Jama Surgery. April 25. 2018.
66	Fukuda T, Kondo Y, Hayashida K	救急部	Time to epinephrine and survival after paediatric out-of-hospital cardiac arrest.	European heart journal. Cardiovascular pharmacotherapy 4 ( 3 ) 144 - 151. July 2018
67	Takahashi H, Kawaguchi M, Kitamura K, et al.	地域医療部	An Exploratory Study on the Anti-inflammatory Effects of Fucoidan in Relation to Quality of Life in Advanced Cancer Patients.	Integrative Cancer Therapies. 2018 Jun;17(2): 282-291.
68	Yamada K, Samura H, Kinjo T, et al.	光学医療診療部	Filiform polyposis in ulcerative colitis.	Polish Archives of Internal Medicine. 2019 Mar 29; 129(3): 199-200.
69	Ohira T, Miyazato K, Arakaki S, et al.	光学医療診療部	A gallstone impaction at the ampulla of Vater.	Polish Archives of Internal Medicine. 2018 Dec 21; 128(12): 779.
70	Ohira T, Iraha A, Kinjo T, et al.	光学医療診療部	Small intestinal metastasis from primary lung cancer.	Polish Archives of Internal Medicine. 2019 Jan 31; 129(1): 57-58.
71	Hokama A, Ohira T, Iraha A, et al.	光学医療診療部	Purple urine bag syndrome.	Polish Archives of Internal Medicine. 2019 Feb 28; 129(2): 130.

72	Shiohira H, Isagawa S, Yamada S, et al.	薬剤部	Applicability of hemodialysis clearance parameter for vancomycin therapeutic drug monitoring during continuous hemodiafiltration in an infant.	Pharmazie. 2018 Dec; 73(12): 737-739.
----	---	-----	--	---

計72件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院の「病める人の立場に立った質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。」という理念のもとに、各診療科において専門的な分野の症例等に対する知識や技術、関連学会が定める専門医の資格取得に関する研修及び教育を実施している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	656.33 人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
藤田次郎	第一内科	教授	38年	
岩淵成志	第三内科	准教授	33年	
古波蔵健太郎	血液浄化療法部	准教授	26年	
石田明夫	第三内科	講師	26年	
古波蔵健太郎	血液浄化療法部	准教授	26年	
益崎 裕章	第二内科	教授	27年	
森島 聡子	第二内科	准教授	24年	
山里正演	第三内科	助教	25年	
崎間洋邦	第三内科	助教	16年	
池宮城秀一	第三内科	助教	16年	
當間裕一郎	第三内科	助教	15年	
西巻正	第一外科	教授	40年	
久田正昭	第一外科	助教	18年	
國仲弘一	第一外科	助教	20年	
國吉幸男	第二外科	教授	39年	
石内勝吾	脳神経外科	教授	34年	
當銘保則	整形外科	准教授	18年	
神谷武志	整形外科	講師	21年	
仲宗根哲	整形外科	講師	20年	

東千夏	整形外科	講師	20年
金城政樹	整形外科	臨床講師	22年
大久保宏貴	整形外科	助教	18年
石原昌人	整形外科	助教	17年
島袋孝尚	整形外科	助教	17年
青木 陽一	産科婦人科	教授	35年
正本 仁	産科婦人科	准教授	29年
銘苅桂子	産科婦人科	講師	20年
中西浩一	小児科	教授	30年
百名伸之	小児科	講師	34年
知念安紹	小児科	准教授	27年
吉田朝秀	周産母子センタ	講師	23年
金城紀子	小児科	助教	32年
高橋健造	皮膚科	教授	33年
山口さやか	皮膚科	講師	15年
宮城拓也	皮膚科	助教	12年
新嘉喜長	皮膚科	助教	15年
林健太郎	皮膚科	助教	12年
斎藤誠一	腎泌尿器外科	教授	35年
鈴木幹男	耳鼻咽喉科	教授	33年
古泉英貴	眼科	教授	21年
近藤 毅	精神科神経科	教授	36年
村山貞之	放射線科	教授	39年
垣花学	麻酔科	教授	28年
瀧上竜也	麻酔科	講師	24年
中村清哉	麻酔科	准教授	25年
新崎 章	歯科口腔外科	教授	35年
久木田一朗	救急部	教授	32年
吉見直己	病理診断科	教授	36年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 沖縄県在宅褥瘡セミナー（褥瘡の治療・栄養管理・予防管理 等） ・研修の期間・実施回数 1日・1回 ・研修の参加人数 113人
・研修の主な内容 看護師特定行為研修講義（皮膚とリンパ節） ・研修の期間・実施回数 1日・1回 ・研修の参加人数 5人
【看護部】 教育理念・教育方針のもと、毎年院内教育計画を策定し、別紙（1）のとおり実施している。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。





(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	大屋 祐輔	
管理担当者氏名	総務課長 金城不二子、医療支援課長 高橋圭郎、検査・輸血部長 前田士郎、手術部長 鈴木幹男、放射線部長 村山貞之、安全管理対策室長 鈴木幹男、ME機器センター長 久木田一朗、薬剤部長 中村克徳、看護部長 大嶺千代美	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療情報管理センター
		看護記録	診療情報管理センター
		検査所見記録	診療情報管理センター
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	診療情報管理センター
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医療支援課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課、経営管理課 各診療科
		高度の医療の研修の実績	総務課、各診療科
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療支援課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室
			各課・診療科・関連部署で適切に管理している。
			各課・診療科・関連部署で適切に管理している。

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	各課・診療科・関連部署で適切に管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	琉球大学医学部附属病院における医薬品安全管理実施要項	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	琉球大学医学部附属病院における医療機器安全管理実施要項	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	琉球大学医学部附属病院における医療に関する安全管理規程
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	琉球大学医学部附属病院における感染対策取扱要項
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	琉球大学医学部附属病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	琉球大学医学部附属病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項
		医療安全管理部門の設置状況	琉球大学医学部附属病院における医療に関する安全管理規程
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	琉球大学医学部附属病院高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	琉球大学医学部附属病院高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程
		監査委員会の設置状況	国立大学法人琉球大学医療安全監査規程
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	琉球大学医学部附属病院における医療事故等並びに死亡事例発生時の報告取扱要項
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	安全管理対策室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	琉球大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	琉球大学医学部附属病院における医療安全管理の適正な実施の疑義に関する情報提供に関する取扱細則
職員研修の実施状況	各診療科、各中央診療施設等		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び	総務課、安全管理対策室、薬剤部、ME機	各課・診療科・関連部署で適切に管理している。	

	医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	器センター	
	管理者が有する権限に関する状況	総務課	
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課	
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	附属病院長 大屋 祐輔		
閲覧担当者氏名	総務課長 金城 不二子		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 2階 小会議室		
閲覧の手続の概要			
閲覧の求めがあった場合、閲覧対応者が個別に対応する			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 本院における安全管理に関する基本的な考え方</li><li>② 医療に係る安全管理のための組織に関する基本的事項</li><li>③ 医療に係る安全管理のための研修等に関する基本方針</li><li>④ 本院における医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策にする基本方針</li><li>⑤ 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li><li>⑥ 患者等に対する当核指針の閲覧に関する基本方針</li><li>⑦ 患者等からの相談への対応等に関する基本方針</li><li>⑧ その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 安全管理の対策及び教育に関すること。</li><li>(2) インシデント又は医療事故の判定に関すること。</li><li>(3) リスクマネジメント・マニュアルに関すること。</li><li>(4) 医療事故等が発生したときにおける事実確認、分析、調査検証等及び対策に関すること。</li><li>(5) 医療事故等の分析等結果を活用した改善のための方策の立案、実施及び実施状況の確認等に関すること。</li><li>(6) 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること。</li><li>(7) 医事紛争が生じたときの拡大防止に関すること。</li><li>(8) 訴提が提起されたときの対策に関すること。</li><li>(9) 関係機関等への報告に関すること。</li><li>(10) その他安全管理、医療事故等、医事紛争及び訴訟の重要事項に関すること。</li></ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>【指針テスト】平成30年5月30日 医療安全に係る安全管理のための指針」</p> <p>【第1回】平成30年6月18日 医療安全の推進に向けて」7部署合同職員研修 講師：奥村 耕一郎先生（琉球大学医学部附属病院 安全管理対策室 GRM 医師） 平田 哲生先生（琉球大学医学部附属病院 診療情報管理センター長） 西俣 友博先生（琉球大学医学部附属病院 臨床工学士） 諸見 牧子先生（琉球大学医学部附属病院 副薬剤部長） 久木田 一朗先生（琉球大学医学部附属病院 救急部長） 賀数 幸隆先生（琉球大学医学部 医療支援課） 官良 透先生（琉球大学施設部）</p> <p>【第2回】平成30年7月27日 「チーム戦略とパフォーマンスと患者の安全性を強化するためのツールを学ぶ チームSTEPPS」 講師：奥村 耕一郎先生（琉球大学医学部附属病院 安全管理対策室 GRM 医師）</p> <p>【第3回】平成30年10月17日 「安全文化の醸成」 ～リスクマネジャーに求めるもの～ ～私たちにできること～ 講師：瀬尾 雅子先生（東京大学医学部附属病院 弁護士）</p>	

【第4回】平成30年12月19日

「チーム戦略とパフォーマンスと患者の安全性を強化するためのツールを学ぶ チームSTEPS」  
講師:奥村 耕一郎先生(琉球大学医学部付属病院 安全管理対策室 GRM 医師)

【第5回】平成31年1月25日

「院内急変を未然に防ぐ」  
～RRSの考え方、導入と継続のアイデア～  
講師:新井 正康先生(北里大学病院  
集中治療センター長/RST・RRT室長)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:
  - ① インシデントレポートやRMから直接または紙面による報告
  - ② GRM、分析担当者、病院管理者による院内巡視
  - ③ 当核部署及び関連部署からの聴取、カルテレビュー
  - ④ 部門のミーティング等に参加
  - ⑤ アンケート調査
  - ⑥ 報道事例を基に、院内の現状把握と職員への周知
  - ⑦ 委員会等(看護師長会参加、安全RN委員会運営)
  - ⑧ 災害対策関連WG、臨床倫理委員会、診療情報関連WG 参加

(注) 前年度の実績を記入すること。



## 規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>② 感染対策委員会の設置</li> <li>③ 感染対策室および感染対策実務者会議の設置</li> <li>④ 職員研修について</li> <li>⑤ 院内感染発生状況及び抗微生物薬使用状況の把握と報告</li> <li>⑥ 院内感染発生時の対応</li> <li>⑦ 院内感染対策指針の閲覧に関する対応</li> <li>⑧ 院内感染対策の推進</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 感染対策マニュアルの改訂・作成に関すること</li> <li>② 耐性菌発生状況および対策に関すること</li> <li>③ 希な耐性菌発生時の保健所との連携や感染対策に関すること</li> <li>④ アウトブレイクの報告と対策に関すること</li> <li>⑤ 感染対策研修会に関すること</li> <li>⑥ ワクチン接種事業</li> <li>⑦ 抗体価測定事業</li> <li>⑧ 抗菌薬使用状況</li> <li>⑨ 血液培養陽性例の発生状況に関すること</li> <li>⑩ 国公立感染対策協議会からの情報報告</li> <li>⑪ 地域連携施設との相互チェック結果と改善内容に関すること</li> <li>⑫ インフルエンザ発生状況に関すること</li> <li>⑬ 手指衛生遵守率向上に向けての活動報告</li> <li>⑭ 針刺し・切創・粘膜曝露発生報告</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①開催日：2018年7月2日（月） 研修回名：第1回感染対策研修会「AST活動について、感染対策の基本、指針のテスト」 延べ参加人数：1588名</li> <li>②開催日：2018年11月22日（木） 研修回名：第2回感染対策研修会「全ての職種で取り組む感染症対策」 延べ参加人数：323名</li> <li>③開催日：2019年1月10日（木） 研修回名：第3回感染対策研修会「アタマジラミと疥癬の特徴と感染対策について」 延べ参加人数：1369名</li> </ol>	
<p>④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況</p> <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎週ICTミーティングを開催し、耐性菌発生の状況や現在実施している感染対策に関する情報をICTで共有している。</li> <li>② ICTメンバーで、アウトブレイクの情報と対策の状況について確認を行う。</li> </ol>	

- ③ 感染管理認定看護師にて日々の耐性菌分離状況を確認し、経路別予防策について病棟と情報共有を図っている。
- ④ 抗菌薬ラウンドをASTメンバーで実施し、抗菌薬適正使用に向けて活動を行っている。
- ⑤ 血液培養陽性例を確認し、他診療科医師へ抗菌薬使用に関して助言を行っている。
- ⑥ ICTにて病棟ラウンド(毎週1回)や中央部門(毎月1回)などのラウンドを実施し、環境対策について確認と指導を行っている。
- ⑦ 職業感染防止対策として、針刺し切創・粘膜曝露対応を行っている。
- ⑧ 手指衛生実施状況のサーベイランスを行っている。
- ⑨ 感染対策の為の器機導入について検討を図る。
- ⑩ N95マスクフィットテストについて、結核患者をみる職員(呼吸器内科病棟、救急外来、救急病棟、血液浄化療法部、内視鏡室)とその他部署の希望者を対象に月に1回実施している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1)平成30年度第1回医療安全職員研修会(7部部署合同) 日時:平成 30年6月18日(月) 17:00~18:00 *ビデオによる追加研修会(6月25・29 日) 講師・テーマ： ④ 諸見 牧子(薬剤部)・・・「医薬品の安全について」 参加延人数:1324人</p> <p>(2)平成30年度第3回医療安全職員研修会(3部署合同：安全管理・医薬品・医療機器) 日時:平成 30年10月17日(水) 16:00~18:00 *ビデオによる追加研修会(10月24・25 日) 講師：弁護士 瀬尾雅子(東京大学医学部附属病院) テーマ：安全文化の醸成 参加延人数：1317人</p> <p>(3)平成30年度第5回医療安全職員研修会(3部署合同：安全管理・医薬品・医療機器) 日時:平成31年1月25日(金) 16:00~18:00 *ビデオによる追加研修会(2月7・8日) 講師：新井 正康(北里大学病院・集中治療センター長/RST・RRT室長) テーマ：院内急変を未然に防ぐ ～RRSの考え方、導入と継続のアイデア～ 参加延人数:531人</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 ( 有・無 )</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 医薬品の採用と情報の作成・提案</li><li>2) 医薬品の購入・発注・管理</li><li>3) 調剤室における医薬品の管理</li><li>4) 病棟・各部門への医薬品の供給</li><li>5) 外来・入院患者への医薬品使用(患者情報収集、処方、交付、指導)</li><li>6) 在宅患者への医薬品使用</li><li>7) 病棟における医薬品の管理</li><li>8) 医薬品の情報収集・管理・情報共有</li><li>9) 手術・麻酔部門、救急部門、集中治療室の医薬品の管理と使用</li><li>10) 他施設との連携</li></ol>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) エイズ患者におけるトキソプラズマ脳症に対するピリメタミン・スルファジアジン・ホリナート(薬剤)の使用</li><li>2) フェノールグリセリンによるくも膜下脊髄神経ブロック</li><li>3) 右大腿部慢性血腫に対するピシバニールを用いた嚢胞縮小術</li><li>4) 造血細胞移植後の消化管移植片対宿主病(GVHD)に対する経口ベクロメタゾンの使用</li></ol>	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1) 院内製剤（未承認医薬品）の病棟・各部門への供給運用

院内で初めて調整する製剤、また過去に承認を受けたが3年間使用が無い製剤を新規院内製剤とし、患者への侵襲性と使用原料から日本病院薬剤師会“院内製剤の調製使用に関する指針”を基にクラス別分類する。クラスⅠとクラスⅡの一部は、高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等評価委員会、あるいは臨床倫理審査委員会、研究倫理審査委員会などの適切な委員会の審査を受ける必要がある。

2) 病棟における向精神薬の管理について

病棟で使用される向精神薬は、受領後、病棟の所定の場所に鍵をかけて保管することを徹底して行うこととした。また定期カートは、注射薬を使用してはいけない時は施錠し、盗難が起らないように再度注意喚起した。

3) 薬剤部の交付方法と病棟での管理について

注射薬交付カートは置き場に留意し、使用时以外は施錠する。注射薬交付時や医薬品の使用前に、容器やふた（汚染防止用のシールを含む）の損壊や異物混入等がないか確認する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年183回
<p>・ 研修の主な内容： 従事者に対する医療機器安全使用のための研修実施。人工呼吸器 血液浄化装置 人工心肺装置 PCPS IABP 除細動器 AED シリンジポンプ 輸液ポンプ及び新規導入機器の取り扱い安全研修を実施している</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 医療機器安全管理専門委員会において策定した点検計画に基づいて実施している。 臨床工学技士は、適宜、メンテナンス講習を受講(各機器メンテナンス認定証発行)、保守点検を行っている。ME 機器管理システムは、ACE メディアステーションに更新し機器管理、大学病院内にて臨床工学室が中央管理している機器を日常及び定期点検を実施している。臨床工学室で対応できない機器に関しては、メーカー保守点検契約を結び対応 (メーカー対応機種は麻酔器、人工心肺装置、放射線関連装置等) としている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>厚生労働省のHPやPMDA, PMDAナビ及び各種学会からの情報収集やメーカーからの不具合情報をMEセンターで収集し、臨床工学室で共有、情報は該当機種か判断し、各部署に周知徹底している。重要事項に対しては臨床工学室長及び病院長に報告している。重要事項の必要度に応じてMEニュースを発行し、再研修や院内ラウンドし全職員に周知徹底している。勤務体系に合わせ個別対応も行っている。診療に支障が出ない範囲で、院内機器の統一化を図り取り扱いの煩雑さを軽減、ME機器の安全性を高めるように臨床工学室で取組んでいる。毎月1回医療機器安全管理専門委員会にてインシデント及びアクシデント点検修理状況、修理状況を周知し各部門が集まり対策を図っている。更に毎週月曜日に、特定機能カンファレンスにて医療安全管理室を中心として各部門が集まり対策している。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 13 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無								
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>琉球大学医学部附属病院における「医療に係る安全管理のための指針」 イ. 医療に係る安全管理のための組織に関する基本事項</p> <p>・病院長は、本院における医療に関する安全管理を総括し、また、医療安全管理責任者を配置する。医療安全管理責任者は、病院長の指揮のもと「医療安全管理委員会」、「安全管理対策室」、「医薬品安全管理責任者」及び「医療機器安全管理責任者」を統括する。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 3 名 ) ・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報の確認を収集は、主に医薬品担当薬剤主任が PMDA、厚労省、製薬会社等の HP や MR からの通知文章、学会等の各種ガイドライン等から、また電子カルテ内の医薬品情報検索システム (JUS・DI) からも収集・整理している。収集した各情報は、DI NEWS として定期的に病棟・診療科に周知し、さらに周知の確認を実施している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 処方に係る禁忌・適応外については、調剤時及び病棟薬剤業務時に主治医に疑義照会し、その内容・結果を診療録に記録し、その情報を収集・分析し、医薬品安全管理責任者へ毎月報告している。また、定期的に病棟・診療科に周知し、さらに周知の確認を実施している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) ・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table data-bbox="175 1545 1276 1769"><tr><td>(所属：薬剤部， 職種：薬剤師 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr></table>		(所属：薬剤部， 職種：薬剤師 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )
(所属：薬剤部， 職種：薬剤師 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( 有・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>: 琉球大学医学部附属病院インフォームドコンセントガイドラインに基づき、診療情報管理センター長(インフォームドコンセント管理責任者)にて新規で作成した説明・同意書の内容監査実施している。評価で要件を満たしていない場合には、評価票を依頼元へ返却し改善を促している。</p> <p>医療安全講演会にて、インフォームドコンセント質的監査結果報告し、全職員対象に周知を行っている。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容:</p> <p>琉球大学医学部附属病院 診療記録監査要領 に基づき実施</p> <p><b>量的監査</b>: 退院患者を対象として、指摘事項等があれば定期的に各診療科へリストを送付し改善を促す。</p> <p><b>質的監査</b>: 「質的監査評価票」を使用し監査チーム(各診療科医師: 18名、その他看護部・薬剤部・診療情報管理センターより選出)が、無作為に選んだ退院患者の診療科間相互監査行う。</p> <p>結果は①診療情報管理センター運営委員会②病院運営委員会③各診療科へ文書にて報告行う。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員: 専従(4)名、専任( )名、兼任(17)名</p> <p>うち医師: 専従(1)名、専任( )名、兼任(9)名</p> <p>うち薬剤師: 専従(1)名、専任( )名、兼任(1)名</p> <p>うち看護師: 専従(2)名、専任( )名、兼任(3)名</p> <p>うち臨床工学士: 専従( )名、専任( )名、兼任(1)名</p> <p>うち事務: 専従( )名、専任( )、兼任(3)名</p> <p>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容:</p> <p>(1)安全管理対策に係る実施状況の調査及び把握に関すること。</p> <p>(2)安全管理対策に係る職員等の教育研修の実施及び意識向上の状況の確認並びに具体的な指導方法に関すること。</p> <p>(3)リスクマネジメント・マニュアルの改正に関すること。</p> <p>(4)医療事故等及び死亡事例に係る発生原因の調査、分析並びに関係部署に対する指導、助言に関</p>	

すること。

(5) 医療事故等及び死亡事例に係る診療録・看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び必要な指導に関すること。

(6) 医療事故等及び死亡事例発生時における患者及び家族に対する説明等の対応状況の確認及び指導に関すること。

(7) 医事紛争の原因の調査及び分析に関すること。

(8) 琉球大学医学部附属病院医療安全管理委員会(以下「医療安全管理委員会」という。)の資料及び議事録の作成並びに保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。

(9) 医療安全相談窓口に関すること。

(10) その他、医療安全対策の推進及び連絡調整に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（3件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・ 活動の主な内容：担当部門会議及び評価委員会の開催
  
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・ 活動の主な内容：担当部門会議及び評価委員会の開催
  
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）



<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 158 件</li><li>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 38 件（事例件数：28 件）</li><li>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 安全管理の対策及び教育に関すること。</li><li>(2) インシデント又は医療事故の判定に関すること。</li><li>(3) リスクマネジメント・マニュアルに関すること。</li><li>(4) 医療事故等が発生したときにおける事実確認、分析、調査検証等及び対策に関すること。</li><li>(5) 医療事故等の分析等結果を活用した改善のための方策の立案、実施及び実施状況の確認等に関すること。</li><li>(6) 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること。</li><li>(7) 医事紛争が生じたときの拡大防止に関すること。</li><li>(8) 訴提が提起されたときの対策に関すること。</li><li>(9) 関係機関等への報告に関すること。</li><li>(10) その他安全管理、医療事故等、医事紛争及び訴訟の重要事項に関すること。</li></ol></li></ul>
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・他の特定機能病院等への立入り（ <input checked="" type="checkbox"/>（病院名：旭川医科大学） ・無）</li><li>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ <input checked="" type="checkbox"/>（病院名：神戸大学 ） ・無）</li><li>・技術的助言の実施状況</li></ul>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・体制の確保状況 琉球大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項 制定 平成 15 年 2 月 7 日（改訂 平成 28 年 9 月 27 日）</li></ul>

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

・研修の内容（すべて）：

【指針テスト】平成 30 年 5 月 30 日

医療安全に係る安全管理のための指針」

【第 1 回】平成 30 年 6 月 18 日

「医療安全の推進に向けて」7 部署合同職員研修

講師：奥村 耕一郎先生（琉球大学医学部附属病院 安全管理対策室 GRM 医師）

平田 哲生先生（琉球大学医学部附属病院 診療情報管理センター長）

西俣 友博先生（琉球大学医学部附属病院 臨床工学士）

諸見 牧子先生（琉球大学医学部附属病院 副薬剤部長）

久木田 一朗先生（琉球大学医学部附属病院 救急部長）

賀教 幸隆先生（琉球大学医学部 医療支援課）

宮良 透先生（琉球大学施設部）

【第 2 回】平成 30 年 7 月 27 日

「チーム戦略とパフォーマンスと患者の安全性を強化するためのツールを学ぶ チーム STEPPS」

講師：奥村 耕一郎先生（琉球大学医学部附属病院 安全管理対策室 GRM 医師）

【第 3 回】平成 30 年 10 月 17 日

「安全文化の醸成」

～リスクマネジャーに求めるもの～

～私たちにできること～

講師：瀬尾 雅子先生（東京大学医学部附属病院 弁護士）

【第 4 回】平成 30 年 12 月 19 日

「チーム戦略とパフォーマンスと患者の安全性を強化するためのツールを学ぶ チーム STEPPS」

講師：奥村 耕一郎先生（琉球大学医学部附属病院 安全管理対策室 GRM 医師）

【第 5 回】平成 31 年 1 月 25 日

「院内急変を未然に防ぐ」

～RRS の考え方、導入と継続のアイデア～

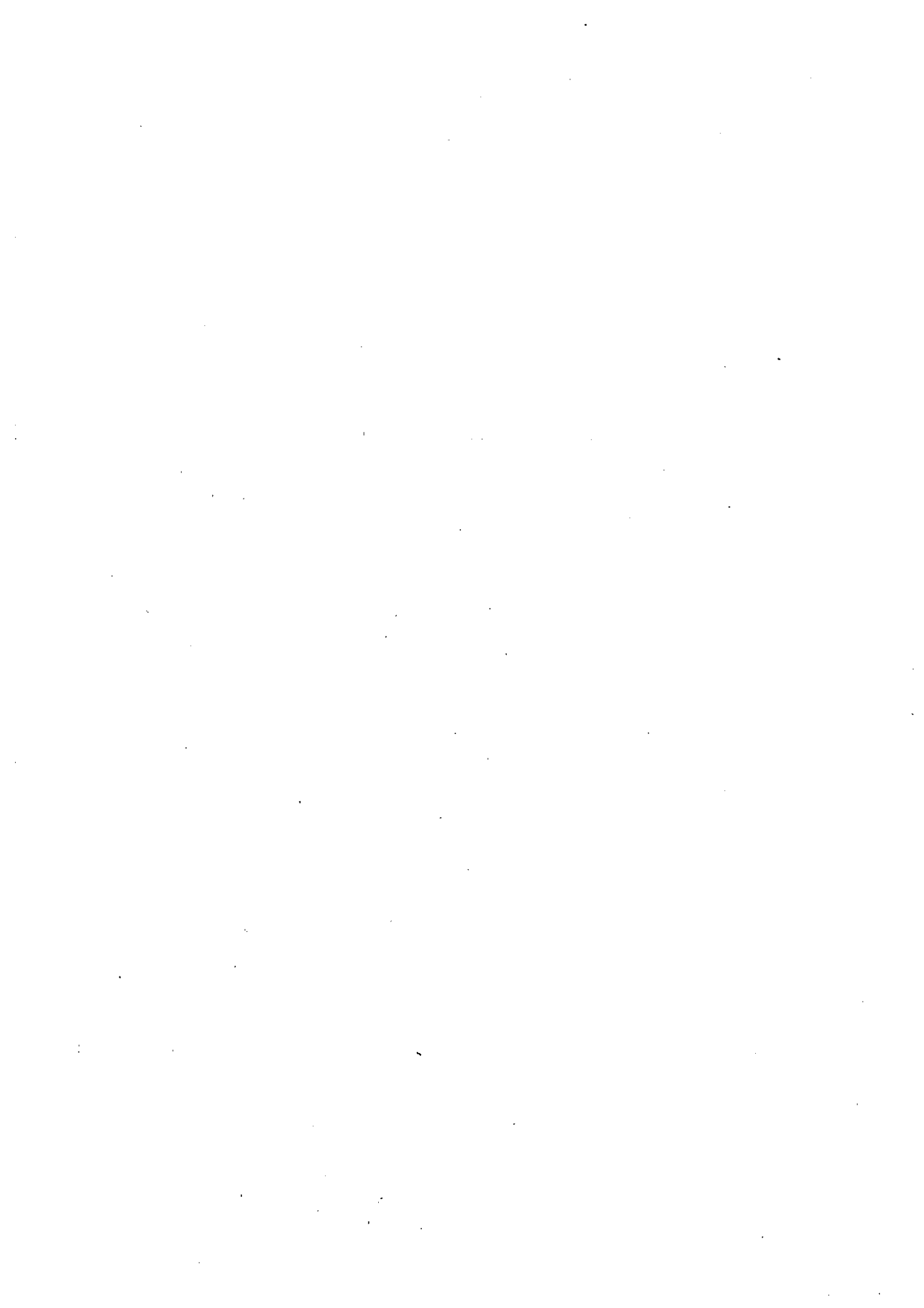
講師：新井 正康先生（北里大学病院

集中治療センター長/RST・RRT 室長）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況			
・研修の実施状況			
管理者			
「特定機能病院管理者研修」	公益財団法人	日本医療機能評価機構	平成 31 年 2 月 5 日・6 日
医療安全管理責任者			
「特定機能病院管理者研修」	公益財団法人	日本医療機能評価機構	平成 30 年 11 月 23 日
医薬品安全管理責任者			
「特定機能病院管理者研修」	公益財団法人	日本医療機能評価機構	平成 30 年 12 月 1 日・2 日
医療機器安全管理責任者			
「特定機能病院管理者研修」	公益財団法人	日本医療機能評価機構	平成 31 年 1 月 21 日・22 日
「医療機器安全基礎講習会」	公益財団法人	日本機器センター	令和元年 7 月 20 日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)



## 規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容 (国立大学法人琉球大学医学部附属病院長選考等規程) 第 4 条 病院長は、次に掲げる要件を満たす者とする。 (1) 医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 10 条第 2 項の条件を満たす者 (2) 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者 (3) 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者</li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 本学ホームページで公表 <a href="http://www.u-ryukyu.ac.jp/aboutus/byointyo/">http://www.u-ryukyu.ac.jp/aboutus/byointyo/</a></li> </ul>

## 規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 本学ホームページで公表 <a href="http://www.u-ryukyu.ac.jp/aboutus/byointyo/">http://www.u-ryukyu.ac.jp/aboutus/byointyo/</a></li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
木暮 一啓	琉球大学	○	学長が指定する理事	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
福治 友英	琉球大学		学長が指定する理事	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
石田 肇	琉球大学		役職指定	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
高橋 健造	琉球大学		大学院医学研究科から選出された 教員	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
吉見 直己	琉球大学		医学部附属病院から選出された 教員	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
青木 陽一	琉球大学		学長が指名する医学部附属病院 副病院長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
宮里 達也	沖縄県医師会		学長が委嘱する学外有識者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
砂川 靖	沖縄県保健医療部		学長が委嘱する学外有識者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
嘉手苺 英子	沖縄県立看護大学		学長が委嘱する学外有識者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
大嶺 千代美	琉球大学		学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無

規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の  
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容 医療法施行規則第9条の23の規定に基づき、次に掲げる事項を審議する。 (1) 運営の方針 (2) 中期計画 (3) 予算及び決算 (4) その他、病院の運営に関する重要な事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 各構成員は、病院運営委員会の資料及び議事要旨を学内イントラネットで閲覧することができ、各構成員はその内容を職員へ周知することとしている。 委員会においても、各部署の長たる構成員に対し、重要事項は直接職員へ周知徹底するよう依頼している</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input type="checkbox"/>無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input type="checkbox"/>無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大屋 祐輔	○	医師	病院長
藤田 次郎		医師	第一内科長
益崎 裕章		医師	第二内科長
岩淵 成志		医師	第三内科長代行
高槻 光寿		医師	第一外科長
國吉 幸男		医師	第二外科長
石内 勝吾		医師	脳神経外科長
西田 康太郎		医師	整形外科長
清水 雄介		医師	形成外科長
青木 陽一		医師	産科婦人科長
中西 浩一		医師	小児科長
高橋 健造		医師	皮膚科長

(様式第 6-3)

齋藤 誠一		医師	腎泌尿器外科長
鈴木 幹男		医師	耳鼻咽喉科長
古泉 英貴		医師	眼科長
近藤 毅		医師	精神科神経科長
村山 貞之		医師	放射線科長
垣花 学		医師	麻酔科長
西原 一秀		歯科医師	歯科口腔外科長代行
加留部 謙之輔		医師	病理診断科長
久木田 一朗		医師	救急科長
大屋 祐輔		医師	リハビリテーション科長
前田 士郎		医師	検査・輸血部長
鈴木 幹男		医師	手術部長
久木田 一朗		医師	地域医療部長
久木田 一朗		医師	救急部長
久木田 一朗		医師	高気圧治療部長
村山 貞之		医師	放射線部長
齋藤 誠一		医師	材料部長
垣花 学		医師	集中治療部長
古波蔵 健太郎		医師	血液浄化療法部長
平田 哲生		医師	医療情報部長
正本 仁		医師	周産母子センター部長
吉見 直己		医師	病理部長
外間 昭		医師	光学医療診療部長
大屋 祐輔		医師	リハビリテーション部長
植田 真一郎		医師	薬物作用制御学分野長
増田 昌人		医師	がんセンター長
平田 哲生		医師	医療情報管理センター長
中村 克徳		薬剤師	薬剤部長
大嶺 千代美		看護師	看護部長
鬼村 博幸		事務職	事務部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (  ・無 ※一部について )
- ・ 公表の方法  
大学のホームページで公表「国立大学法人琉球大学規則集」
  
- ・ 規程の主な内容  
予算執行の権限として、国立大学法人琉球大学会計規則及び予算規程、  
人事権については、国立大学法人琉球大学組織規則、文書決裁規程、病院規程、病院人事委員  
会で対応している。
  
- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割  
琉球大学医学部附属病院副院長及び病院長補佐に関する内規を改正し (平成 30 年 6 月)、  
副院長、病院長補佐の役割を以下のように明確化した。  
○副院長は、次に掲げる病院長業務を分担する。  
(1)医療安全、(2)診療、(3)経営、(4)教育研修、(5)臨床研究、(6)看護及び患者支援  
○ 病院長補佐は、次に掲げる業務を分担する。  
(1)広報、(2)研究倫理、(3)臨床倫理、(4)医療情報、(5)遠隔医療、(6) その他病院長が必要  
と認める事項
  
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
平成30年10月～本年9月末までの状況  
<H30年度実績>
  - ・ 特定機能病院管理者研修 (参考) 9, 11, 1, 2月開催 藤田次郎、大屋祐輔、鈴木幹男、中村克徳、久木田一朗
  - ・ 経営改善アカデミー (参考) 2月開催 平田哲生
  - ・ 国立大学病院国際化担当者会議 (参考) 11月開催 平田哲生
  - ・ 国立大学附属病院長会議第3回病院長塾 (参考) 2月開催 大屋祐輔、鈴木幹男  
<R1年度 10月1日現在>
  - ・ 国公立大学附属病院医療安全セミナー (参考) 5月開催 鈴木幹男、平田哲生



規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>次に掲げる事項を審議する。</p> <p>病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査に関すること。</p> <p>安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>監査の実施に際して、病院の業務状況について病院長に報告を求め、又は必要に応じて自ら確認する。</p> <p>委員会は審議の結果に基づき、学長に是正措置を講じるよう意見を提出する。</p> <p>審議の結果及び前述の意見を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>大学公式ホームページおよび病院公式ホームページでの公開</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
近本 亮	熊本大学医学 部附属病院	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
望月 保博	かりゆし法律 事務所		法律に関する識 見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
儀間 小夜 子	NPO 法人こども 医療支援わら びの会		医療を受ける立 場にある者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
嘉目 克彦	琉球大学		学長が必要と認 めた者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

監事による監事監査、監査室による内部監査、総務部総務課の通知により、個人情報保護法の遵守  
状況確認、法令に基づいた規則の整備状況確認、人事・労務管理システムの確認など多岐にわたって  
行われている。(従来からの取組み)

・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・ 無 ※監査室)

・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・ 無 )

国立大学法人琉球大学監事監査規則

国立大学法人琉球大学内部監査規則

・ 内部規程の公表の有無 (  有 ・ 無 )

・ 公表の方法

大学のホームページで公表

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 監督は役員会が行う。 高度な医療安全体制を確立するため令和元年 7 月 31 日に「国立大学法人琉球大学における琉球大学医学部附属病院の業務の監督に関する申合せ」を制定した。</li><li>・ 会議体の実施状況 ( 年最大 48 回 )</li><li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ) ( 年最大 48 回 )</li><li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 )</li><li>・ 公表の方法 本学医学部附属病院ホームページで公表</li></ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 ホームページ及び電子カルテポータルシステムのお知らせ</li></ul>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 病院機能評価（3rdG:Ver1.1） 平成27年4月23日・24日受審 認定第J C 509-3号 平成27年5月30日～令和2年5月29日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 【広報手段】 ・病院ホームページ、病院情報誌ホットライン、大学院・医学部・附属病院概要などで広報活動を行っている。 【広報内容】 ・病院指標（年齢階級別退院患者数、診断群分類別患者数 等） ・診療科部等の紹介 ・職員、専門医、認定医等の紹介 ・特集記事 （インフルエンザ・不眠症・鬱病などの病気に関することや、新規導入機器・施設等の紹介） ・イベント案内 など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 * 周術期の患者に対し、歯科口腔外科と手術を実施する診療科が連携して外科手術後の合併症予防のための口腔機能管理を行っている。  * 複数診療科にまたがる手術を要される患者に対し、手術実施診療科だけでなく病理医も含め合同でカンファレンスを行うなど、連携して対応にあたっている。  * 精神科入院患者で、身体疾患を併せ持つ患者に対して、精神科と精神科以外の診療科が連携し、必要に応じて精神科以外の診療科への入院受け入れが可能な体制となっている。	

